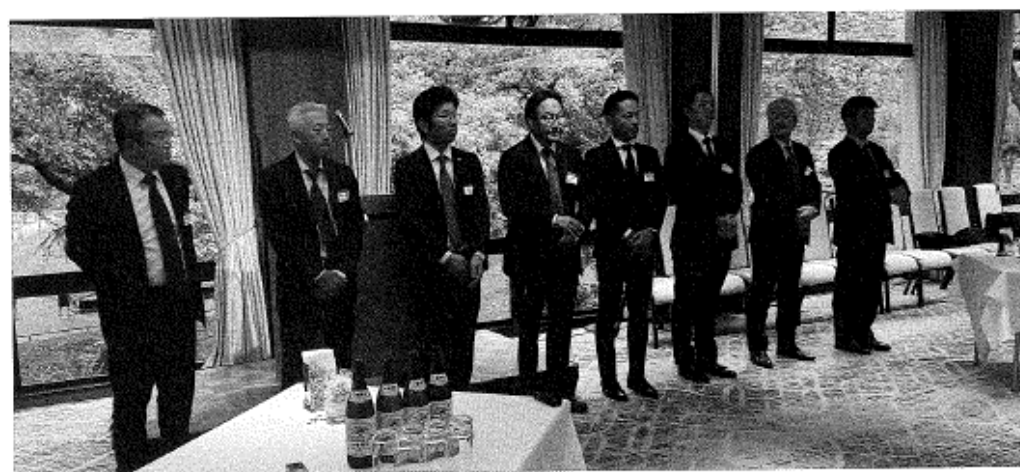




来賓挨拶をする、JATMAの遠藤専務理事



JSRAの役員の紹介

協同組合 日本タイヤリサイクル協会 JSRA

第34回 通常総会・昼食懇親会を開催



懇親会冒頭、挨拶をする、JSRAの鳥海理事長

資源化への積極貢献、タイヤ業界との協調と業界の地位向上、未来と社会への貢献推進を遂行していきたいと考えている。引き続き、JSRAの活動に、ご理解、ご協力を頂ければと思う。

続いて、JATMAの、遠藤専務理事が、次の様に、来賓挨拶をした。

「JSRA会員の皆様は、我々会員が製造販売したタイヤが使用され、廃棄されたものを、適正に回収し、適正に処理、再資源化を行うという役割を担って頂いている。こういった、タイヤの製造から、廃棄、再利用までという、ライフサイクルの中で、我々としても、JSRAとの、友好な協力関係を、引き続き維持したいと考えている。JSRAが掲げている、基本理念は、タイヤ循環サイクルにおいて、とても重要な事項であるので、今後も、我々としても、連携をさせて頂きたいと思っております」

協同組合日本タイヤリサイクル協会（JSRA）は、5月22日、日比谷松本楼で、第34回通常総会、ならびに、懇親昼食会を開催した。

懇親昼食会には、JSRA会員ほか、報道関係者、同会、賛助会員が参加し、来賓として、日本自動車タイヤ協会（JATMA）の、遠藤健太郎専務理事が参加した。

懇親昼食会冒頭、JSRA、鳥海重利理事長（株式会社トリウミ代表取締役）は、大要、次の様に挨拶をした。

「今年度も、需要が供給を上回る状況が、継続すると考えている。また、再資源化事業等高度化法が施行される。この法規制の目指すものとは、再資源化の質と量を、改善、拡大する事で、循環型社会への移行であり、我々も、今後、そこを見据えて、日頃より対応を考えていきたいと考えている。この様に、環境が大きく変化する中で、利用先様、賛助会員の皆様、JATMA様、タイヤ関連業界、行政等にもご協力頂き、我々の基本理念である、順法活動の厳守、再